

平成28年 新年賀詞交換会

1月15日、中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、292人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。ここでは、主催者代表の根本洋治市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃より市政各般にわたり、皆様方からお寄せいただいております。暖かい御支援、御高配に対し、深く敬意を表し衷心より厚く御礼を申し上げます。市長就任後、初めての新年を迎え、今、活力ある自治体として生き残っていくために、「市民の皆様とともに、牛久市を変えていきたい」とその思いを強く抱いているところであります。

◆らっくわん

私の施政方針に、ひたひた野うしく地区への中学校建設があります。教育は未来への投資であり、地域全体で取り組むべき最重要課題です。地域づくりの拠点とし

て、やがて子どもの数が減ってきたときには、他の目的の施設に転用しやすいように、かつ、建設費も過大とならないよう優先度を高くし、推進して参ります。また、今ある学校も、様々な人材を学校活動に取り込み、もつと活性化したいと思えます。

◆まちづくり

現在、牛久市は常磐線沿線で唯一人口が増加し続けています。将来的には人口が減少するといわれている中で、市では「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定中であり、牛久市の実情に沿った施策を打ち出し、人口減を食い止めたいたいと思っております。高齢社会では、必ず空き家の問題が出てきます。昨年成立した空き家対策特別措置法と国の指針に沿い、

「空き家対策計画」を策定し、対応していきます。空き家バンクを設立し、売りたい人と買いたい人の双方が満足して暮らせるようにしたいと思えます。また、まちづくりを進めていくうえで、安全が大事です。私自身が消防団に長い間関わってきたこともあり、防災に強いまちづくりを目指していきます。まず、今年から、市役所職員による消防隊を結成します。現在、団員数の減少に伴い、平日昼間の消防力が低下しており、この状況をカバーするために、職員で新たな消防隊を組織し、火災が発生したときなどに、既存の分団と連携して迅速な初動対応を行うことを目的とします。犯罪被害の防止のために防犯カメラの設置にも取り組んで参ります。

◆暮らしについて

高齢化の進展によって、介護が必要な方、認知症の

方というのは増加傾向が続きます。認知症の方と家族の方などが集まって、簡単な体操をしたり、お茶を飲みながら笑ったり、お互いに悩みを話したりするオンラインカフェという事業がありますが、こういう取り組みは大事に育てていきたいと思えます。また、子育て世代を支えるための取り組みの一つに医療費助成のマル福制度があります。今は中学3年生までが対象ですが、牛久市では独自の措置で高校生まで拡大できるように検討しています。現在、予算編成も佳境に入り、なすべきことが多くある中、限りある財源で私の考える牛久市に近づけるため、頑張っているところです。

この新しい1年が充実した、実りあるものとなるよう、「笑顔のまち、牛久」を目指して、皆様と一緒に頑張って参りましょう。